

平成26年度前澤研究室

チャレンジゼミナー

水本槽班

メンバー

C 福田 (班長)

S3 垂井 (アドバイザー)

E3 延藤 (生態管理)

S3 石井 (書記&資料作成)

【生態】 性に目覚めたプラナリア
～ラブ・ストーリーは突然に～

【水槽】 プラナリア飼ってみたw w w

【食性】 プラナリアの食性と食成分がも
たらすからだへの影響

もくてき

水槽でプラナリア（宮川で採取）を飼うことによりプラナリアの生態を知る。

自然に近い状態の水槽をつくる。

初期の水槽の様



・石や水質改良剤、黒玉などを入れ、水質を改善し、魚の数を減らす。観察が困難

水質悪化

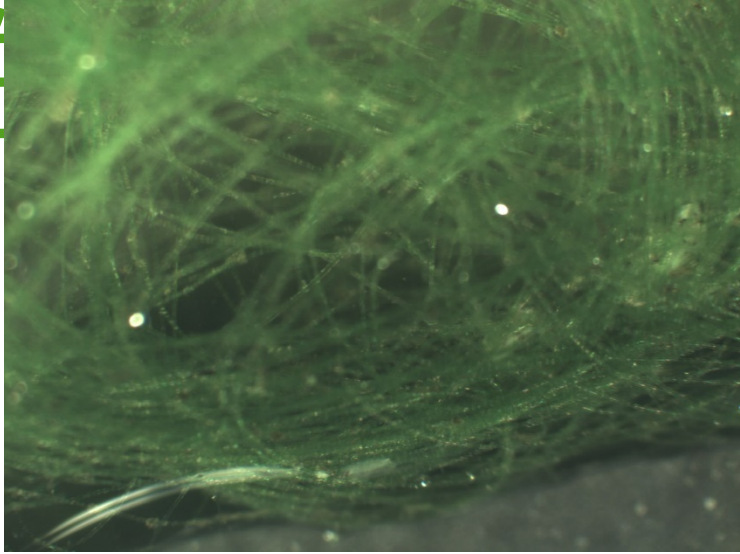
個体数の減少

観察困難

以上の問題点よ水槽の環境を改善せざるを得ないという結論になり

シンプルにした
た

水槽の壁面にアオミドロが発生



どのように、
どこから発生したのか。。。。

▶ 新たな発見をしたがそれから半年間
活動といえは週1回餌をやるだけとなっ
た
があることを思い始める。

もっと生態系に近づきたい

我々は考え
ある行動にうつった



紫葉
蘇木

し

ま

水

ん

害虫（ミズムシ）が大量発生！！

藻が食べられはじめた！

そして害虫共の
侵略が始まった

地は枯木 空は曇り

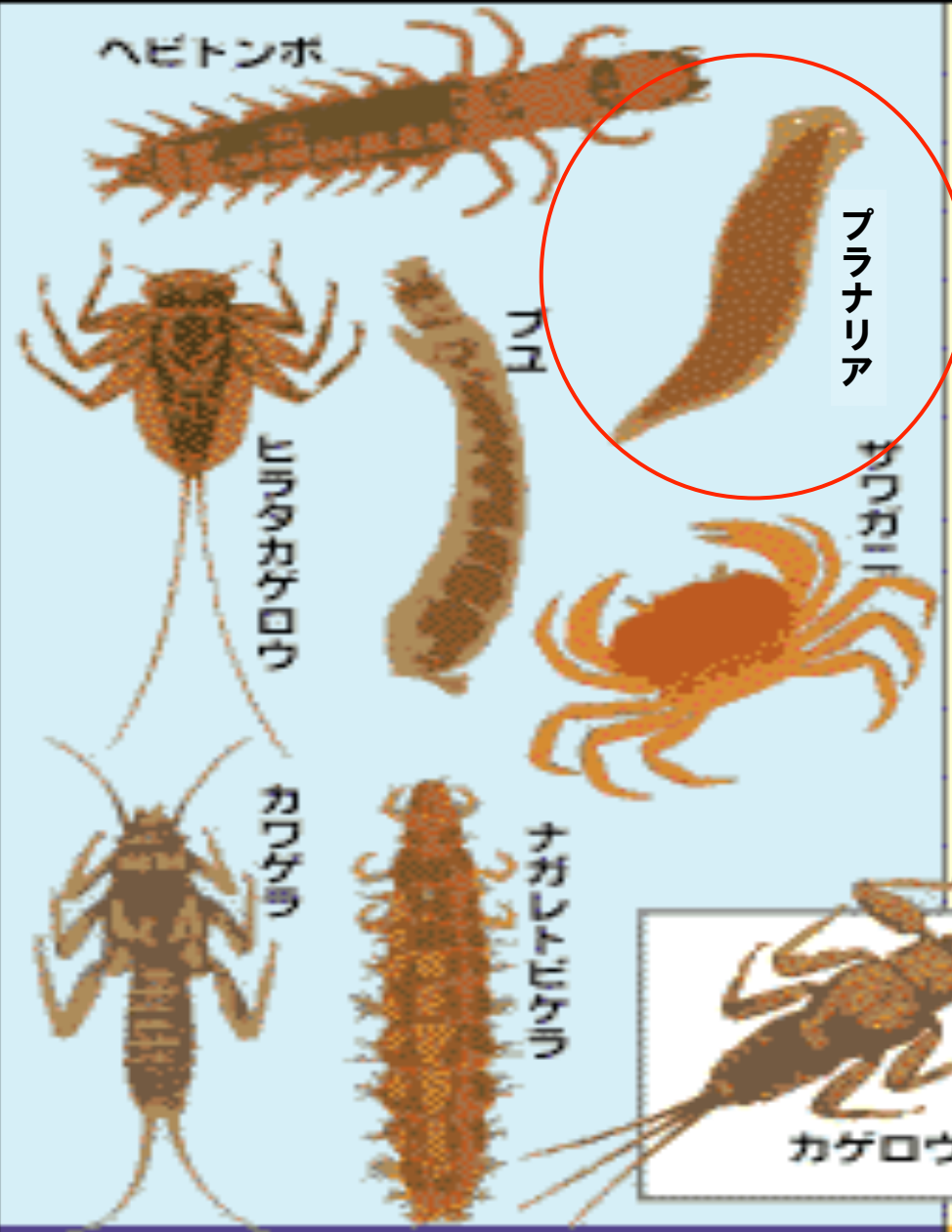
プラナリアの住処が
危機へとさらされ
た!!!

ここである1匹の
勇者が立ち上がった

インクルーシブのまち

**この害虫（ミズムシ）
実は我々にある重要なことを
教えてくれる生き物だったので
す。**

指標生物



きれいな水 I



少しよごれた水 II



きたない水 III



大変きたない水 IV

水質階級

ここである1匹の
勇者が立ち上がった



解題はしるし

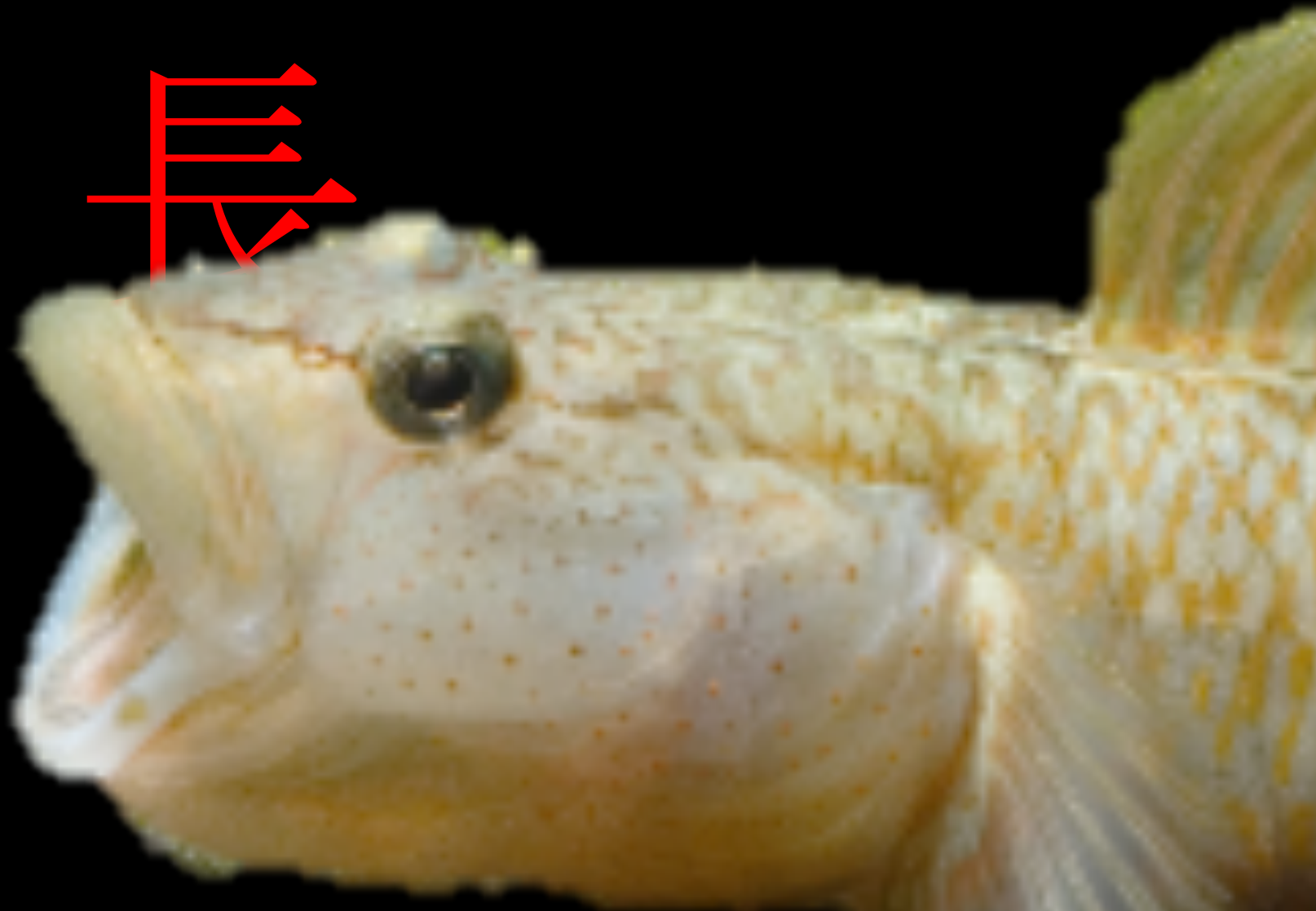
る、

ヨシノホリ兵

長



害虫





害虫の駆除に成功

生態系は守られるかも
ここで新たな疑問が生じた
じゃね？

しじみせんべいお餅会

現状と気づいたこと

- ▶ ヨシノボリによりミズムシが捕食され少数で維持されており増えずミズゴケが食べ尽くされる心配がない。
- ▶ ミズゴケが枯れずに維持できている。
- ▶ プラナリアが水槽内のサカマキガイの卵を食べる。
- ▶ 与えている餌・貝の卵以外にも“何か”を食べていそう。

問題点と課題点

- ▶ 餌を外から与えなければならない
(水槽内でプラナリアの食べる対象が少ない)



貝の卵以外にもプラナリアの食料を
確保・発生させなければならない。
(先ほど気づいたことにあった“何か”を
増やさなければならない)

感想

ご静聴ありがとうございました